別紙様式1

令和3年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　　学校名　三原市立第三中学校　　校番（　3　）

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 社会や世界の状況に対応し，よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	○資質能力ベースの学びが展開され，生きて働く力が育まれる。 ○豊かな表現力と協同性が育まれる。	○学力調査において，単年度で全国平均比較で3ポイント向上させる。 ○批評的思考力や相手意識を持った表現力（パブリックスピーキング）を向上させる。	学びにつながる校内授業研究を一層充実 ○第三中「授業づくり徹底5項目＋α」を授業で完全実施 ○日常的な授業で「自ら考え，考えを他者に伝える場」を設定 ○基礎学力を培う学力向上学習（GK），家庭学習の充実とともに，知識を活用する場を設定 ○情報端末機器を活用した個別最適な学びの推進	・学力調査における年間全国比の伸び率 ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施	3P 3回 6回	－ 2回 9回		－ 133% 300%	- A A	・各教科とも文章で解答する問題の正答率が低く，無回答率も大きい。 ・授業交流週間を2度実施しており，計画通り進んでいる。 ・校内研修については，講師の招聘ができないこともあったが，計画通り実施できている。また，研究授業の様子をビデオ撮影しており，全教職員が後日研修できるようにしている。	・校内の定期テスト中に，記述式の問題を必ず出題し，無回答率の半減を図る。 ・3学期に授業交流週間を計画する。 ・11月16日の公開研究会をふくめ，今後も校内研修を引き続き実施していく。	○			○授業交流，校内研修が充実しており，すばらしいと思います。「授業がよくわかる」「学校が楽しい」等にかかわって成果が出ているように思われます。
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」 の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」	80% 80%	1年 ①82% ②89% 2年 ①67% ②78% 3年 ①80% ②85%		1年 ①103% ②111% 2年 ①84% ②98% 3年 ①100% ②106%	①B ②A	・1，3学年で目標を上回ることができた。昨年度よりも改善が見られる。 ・どの授業も落ち着いて行うことができている。 ・「Chromebook」を授業で使用する機会が増えてきており，夏季休業中の宿題でも活用することができた。	・習熟度の向上のためにも，理解した内容を他者に伝える活動を効果的に取り入れる。 ・既習事項の反復練習をGKタイムを利用し理解定着をめざすとともに，「Chrombook」を利用したドリル学習に取り組ませる。 ・「Chrombook」を授業内で有効に活用できるように，積極的に授業等での活用を図る。	○			
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実～ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり～ ◎小中連携の推進により，全職員が生徒指導を含む全ての教育課程で義務教育を見通せるようになり，結果，不登校生徒が減少する。	○全生徒が粘り強く，助け合うことができるようになる。 ○忍耐力（レジリエンス）の向上を図り，問題行動を減少させる。 ○不登校生徒を前年度と比較し，2/3以下とする。	○「三中チャレンジカップ」の実施 ・縦割りによるピア・サポートの充実 ・肯定的な評価 ○三中スタンダードの徹底及び質の向上 ・挨拶，返事，言葉遣い，無言掃除	・生徒アンケートにおいて 「学校が楽しい」 「友達と話し合い， 考えを広めていける」	90% 85%	88% 76%		98% 89%	B B	・生徒会主催による「三中チャレンジカップ」を計画し，実施をしている(生徒会主催4回，行事2回)。 ・三中スタンダードの徹底について，年度初めから継続して集会を開くごとに周知，確認をしている(生活テーマを設定し取り組んでいる)。 ・生徒指導について，月ごとに周知，確認するだけでなく，学校生活の場面で改善が必要なことがあればすぐに全体で確認し指導することができるようにした。	・生徒会主催の「三中チャレンジカップ」について，できていないことを評価にすることではなく，できていること(頑張っていること)が評価されるチャレンジカップの開催をしていく。 ・定期的な集会，生徒指導委員会を継続して実施し，教職員，生徒が日常的に意識して生活できるようにする。	○			○できていることを評価するのは素晴らしいことだと思います。 ○挨拶が，とてもよくできている。 ○コミュニケーションをより多くとり，また幅広い人々との関係づくりを意識して構築することが大切であると思います。
			○広島県生徒指導サポート実践指定校の取組 ・生徒指導主事を窓口とし，学年主任を中心とした体制を構築 ・特別支援の視点による生徒アプローチの実施 ・不登校生徒とその他の長期欠席者に対する統一取組の徹底 ・不登校傾向を示す生徒の早期発見と迅速かつ適切な対応 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒数の減少 100日以上の不登校数 30日以上の不登校数 完全不登校	7人 9人 0人	0人 12人 0人		100% 33%増 100%	B B B	・月ごとの生徒指導テーマを設定し，日常的に指導ができるようにした。 ・特別支援教育委員会で気になる生徒について取り上げ，特別支援の支点を踏まえながら対応や指導について協議，連携をした。 ・不登校生徒，長期欠席者に対して，授業の進度，課題(宿題等)について知らせることにより，学校の様子や学習について支援を行った。 ・定期的な教育相談委員会を開催し，配慮や取組が必要な生徒についてSSW，SC，関係機関(三原市子育て世代包括支援センター等)と連携し，対応について協議した。	・生徒指導委員会の実施を継続し，学年の実態や課題について協議し改善を図る。生徒指導委員会で協議したことについて学校経営会議においても周知し，学校全体で取組める体制づくりをする。 ・不登校生徒，長期欠席者へのアプローチを継続し，学校との連携が途切れないようにし，進路実現や自己の生活改善につなげられるようにする。	○			○不登校生徒，長期欠席生徒に対しての支援ができ，成果が見られている。
信頼される学校・働き方改革	◎働き方改革が推進され，学校教育力が向上する。	○行事の精選と学校組織力を向上させ教職員が生徒に向き合う時間を向上させる。	○行事の精選と定時退校日の完全実施 ○機能するカリキュラムマネジメントにより効果的な校務運営	・行事の見直し ・超過勤務月60時間以内	3項目 70%以上	2項目 74%		133% 106%	A A	・コロナ禍の中，今年度は，家庭訪問を希望者懇談会に変更した。また，中間試験を中止し，試験範囲の確保を行った。 ・昨年度の反省点を改善するため，今年度は超過勤務60時間以内を目標に掲げ，定時退校の呼びかけを積極的に行った結果，目標を上回る74%の成果を上げることができている。	・校区内の学校スタンダードの徹底を図るため，小中連携を密に実施していきたい。 ・働き方改革推進に向けて，仕事の精選を行うよう，呼びかけていきたい。	○			○教職員の方々の働き方改革がさらに進むことを望みます。余裕があるからこそ，生徒に対して力を注ぐことができると思っています。 ○本年度より運用されている「すぐーる」での配信は情報も即確認できることや履歴を確認できることがとても有効であると思っています。
	○通いたい・通わせたいと感じさせる学校を創る。	○普通学級編成を各学年4学級編成とした，様々な縦割りの学校教育を実施する。	○小中連携を通して，小学生及び保護者，小学校教職員に信頼される学校づくり ○環境整備を推進し，美しい学校づくり ○生徒の自治的な活動を活性化する ○行事の充実 ・第3学年生徒をリーダーとした全ての生徒が輝く行事の実施 ○便りやHPを活用した学校教育の発信	・校区内の児童生徒の情報共有 ・主体的な学びに迫る校内研修 ・たより等による広報 ・ホームページの更新	月1回 6回 24回 月2回	月4回 4回 19回 月2回		400% 133% 158% 100%	A A A A	・月4回の小中連携を実施し，校区内の学校スタンダードの共通実施に向けての理解を深めることができたことで，6年生がスムースに中学校生活になじむことができる。 ・授業交流週間を通して，読ませる工夫，聞かせる工夫，意思表示させる工夫など，教職員間で多くの学びがあった。また，校内研修を4回行い，授業づくりの徹底5項目についても再度確認できたことが，教職員の授業改善に繋がってきている。 ・今年度もコロナ禍の中で，いくつかの行事が中止または延期されたが，貴重な生徒の活動の様子を学校だより，歳時記等で積極的にHPに掲載した。	・校区内の学校スタンダードの徹底を図るため，小中連携を密に実施していきたい。 ・コロナ禍の中でも，感染対策を施しながら，教職員間での授業参観や校内研修を積極的に行ったが，ICT機器の導入から1年が経過し，もっと活用方法を工夫することで，生徒の主体的な学びに繋げていきたい。 ・三中歳時記など，生徒の活動の様子などをHPに掲載するなど，タイムリーな情報発信を工夫していきたい。		○		

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。